

本校の生徒指導目標（校長の方針）

『自立への教育』
— 伝え合う力の育成を通して —
伝え合う力を育成し、生徒指導の機能を生かした授業づくり・仲間づくりを推進することで、児童一人一人の自立を目指す。

共通理解

○職員会議での生徒指導主事による周知

児童・教師・保護者へのアンケートと点検項目のチェックから、生徒指導推進委員会で学校によさや課題、児童の実態や課題・変容等について考察、それらに対する対応を考え、職員会議で全教員へ生徒指導主事から周知を行う。

○児童の特性に応じたかかわり方の研修

校内研修の時間に、感情がコントロールできなくなる子の特性を理解し、高ぶったときの対応や日頃のかかわり方について全教員で研修する。

実態把握

○点検項目やアンケートを活用した評価

年2回全教員対象に「問題行動の未然防止に向けた点検項目」と「教師アンケート」を実施し、生徒指導推進委員会で集計・分析する。

○アンケート、情報交換会による児童理解

年2回児童全員に対して「心のアンケート」を実施し、児童の実態把握に努める。生徒指導推進委員会で集計・分析する。また、生徒指導についての情報交換会を開催する。

検証改善プラン

① 共感的に受け止め

温かい教師

よく見て、よく聞いて、児童の心とその背景等児童理解を進める。

② チームの力で

理解し、助け合う教師

全職員で、全児童を見守っていくために、常に情報交換と話し合いと相談を進める。

③ 毅然と粘り強く

ぶれない教師

「誰もが 誰に対しても 同じ指導を最後まで」共通理解と共通実践を進める。

教育活動プラン

活躍できる

○授業での話し合い活動の推進

「伝え合う力」を中心に、共感的な人間関係の中で、自己存在感を得ることのできる授業を目指し、授業での学び合いの場面で、お互いの考えや思いを伝え合う話し合い活動を取り入れる。

かかわり方を身に付ける

○話し合い活動におけるスキルの習得

話し合い活動の充実に向け、ことばを通して自分の考えを的確に伝えるための話す・聞くを中心としたスキルや、話し合いのルールづくり、さらには相手を尊重し理解しようとする心を育てる。

主体的に生活をつくる

○話し合いを通しての仲間づくり

特別活動を中心に、互いのよさを認め合い、励まし合って生きることの大切さを学ぶために、学級活動や児童会活動の年間活動計画の中に、伝え合う力を発揮する場として話し合いやかかわり合いの場面を意識して位置付ける。

安心して自分を表現できる

○全ての教科で話す・聞く力の向上

学級活動の話し合い活動を充実させ、国語科で話し方や話し合いの基本を身に付けさせる。すべての教科において、話し手を見て聞くこと、異なった意見や誤答を尊重することを大切にする。

人とつながる

○異学年交流など交流活動の工夫

参加体験型学習等を取り入れ、人間関係づくりを進めたり、異学年交流や行事等を通して、自尊感情を高めたり、自己存在感をもたせたりする。教科においても交流活動を取り入れ、かかわり合うことよさを体感させる。

自分を見つめ生き方を考える

○すてきな生き方と出会う場づくり

優れた生き方のモデルとなる地域の方や夢を実現させたスポーツ選手、芸術家などに実演と講話をしていただき、児童が自らの生き方を考える機会とする。

わかる授業づくりに努めるとともに、「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」といった視点から教育活動を改善する
生徒指導担当教員を中心に教職員等が役割の連携を図り、組織的・機能的な生徒指導体制・教育相談体制を構築する

生徒指導をコーディネートする

○生徒指導推進委員会の編成

生徒指導推進委員会を編成して、各学年から出た問題行動の実態を分析した上で、各教科や特別活動、道徳においてどのような取組をするか、生徒指導主事の提案をもとに話し合う。

上記の教育活動を推進する

○現職教育3部会との関連を図る

現職教育の3部会「確かな学力部会」「豊かな心部会」「健やかな体部会」で、各教科での話し合いや学級会や児童会の進め方などについて具体的な取組を話し合い、全教員の共通理解を図る。

個別のサポートをする

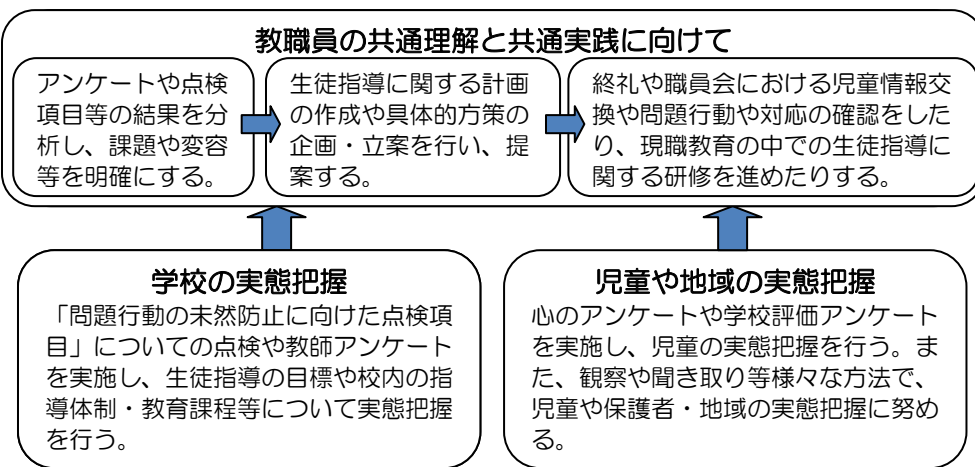
○サポートチーム編成の工夫

問題行動発生時には、生徒指導主事が中心になり、学年団や管理職、養護教諭などに情報を迅速に伝え、対応について共通理解を図り、チームで対応し、担任の抱え込みを防ぐとともに早期解決を目指す。

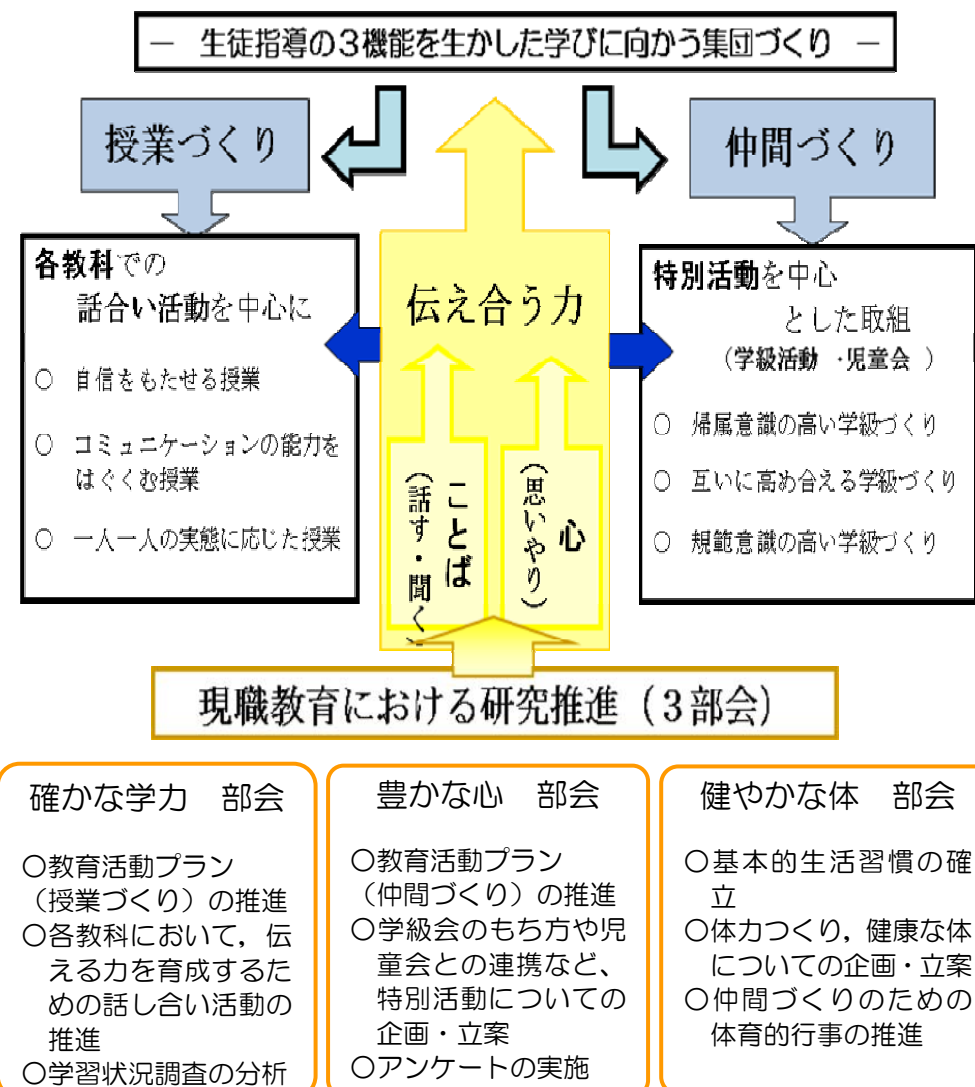
指導体制プラン

教育目標 「豊かな心で共に生き、未来を拓く子どもの育成」

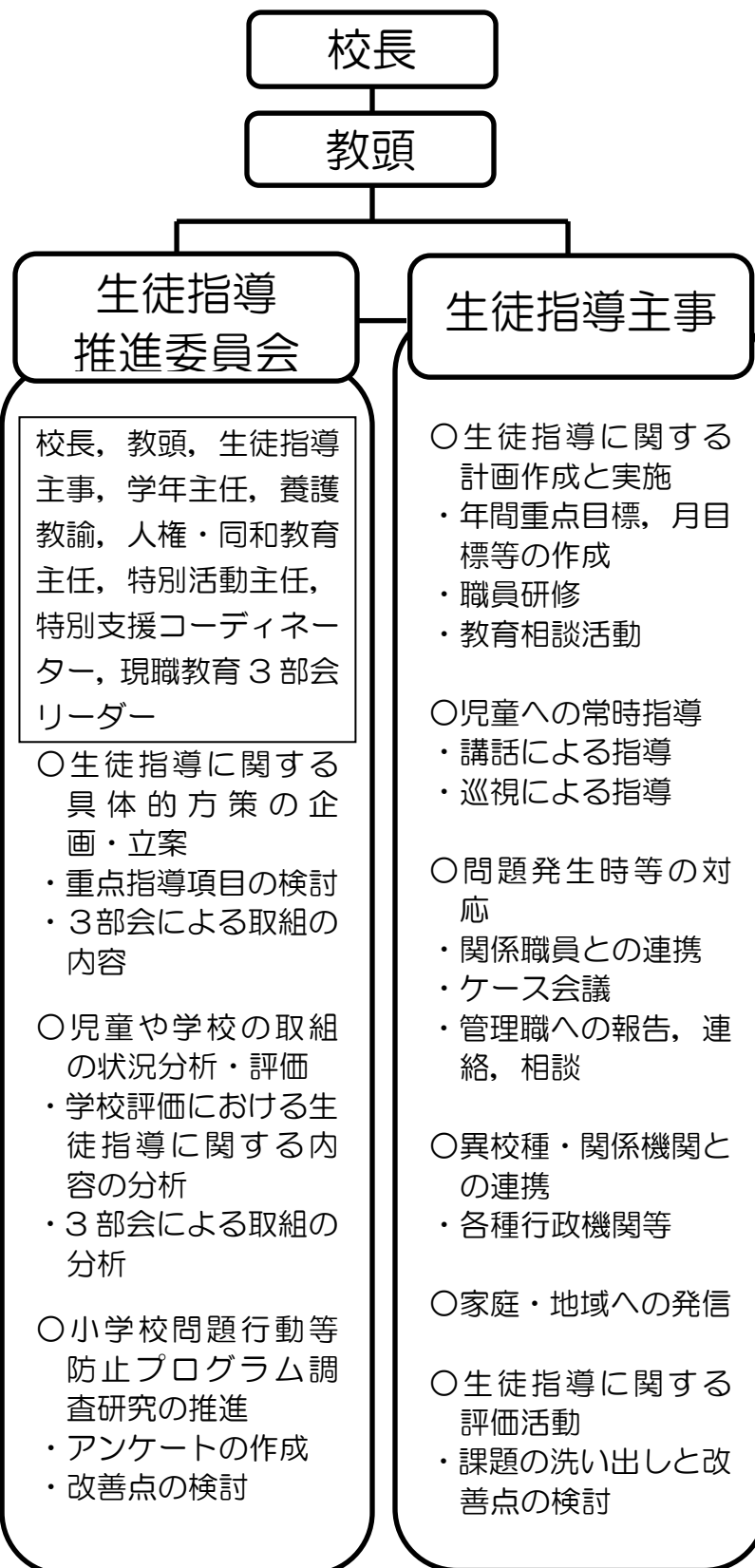
検証改善プラン



教育活動プラン



すべては、子どものために



指導体制プラン

